

# □ 吹奏楽

## 中橋愛生

### ■国内団体の動き

プロのバンドでは、シエナ・ウインド・オーケストラが新元号制定を記念した委嘱作品8曲での定期演奏会を6月15日に開催（指揮：原田慶太楼）。4月1日には広島市文化財団が中高生を集め広島ウインドオーケストラが指導を行なう「広島ジュニアウインドオーケストラ」を発足。これには昨年末に策定された「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に対する動きとも見える。その指揮者である下野竜也は3月1日に芸劇ウインド・オーケストラの第5回演奏会に出演、「ハルモニウムジークプロジェクト」第一弾となった酒井健治の委嘱作品を初演。昨年4月に公益社団法人化したOsaka Shion Wind Orchestraは2月2日にクリスチャン・リンドバーク（Trb）を指揮・独奏に招き自作自演を含む定期を行なうなど独自性の強い方向を打ち出している。珍しい活動としては東京吹奏楽団が1月14日よりレインボータウンFMでラジオ放送「Vival吹奏楽」を開始した。

官公庁のバンドでは、6月29日から7月7日にかけて海上自衛隊東京音楽隊がカナダで行なわれた国際軍楽祭「ロイヤル・ノバスコシア」に参加。また、陸上自衛隊中央音楽隊も8月末にロシアで開催された国際軍楽祭「スバスカヤ塔」に参加しており、この数年は海外の軍楽祭への自衛隊バンドの参加が目立つ。陸上自衛隊中央音楽隊は1月28日の第156回定期演奏会を日本の吹奏楽発祥150年を記念した内容で開催したのも目を引いた。

音楽大学の活動では、6月28日から30日まで東京藝大ウインドオーケストラがフランスのラ・クロア・ヴァルメール吹奏楽フェスティバルに参加したのが大きなトピック。10月21日には関西の7つの音楽大学（大阪音楽大学・大阪教育大学・大阪芸術大学・京都市立芸術大学・神戸女学院大学・相愛大学・武庫川女子大学）による吹奏楽フェスティバルの第1回がザ・シンフォニーホールで行なわれており、これが今後も継続されるかが注目。今年の4月には東京音楽大学に吹奏楽アカデミー専攻、名古屋芸術大学にウインドアカデミーコースが開設され、この数年で徐々に音楽大学での吹奏楽教育の広がりが見受けられる。

### ■イベント

毎年5月にアクトシティ浜松を会場に開催されているジャパンバンドクリニック（日本吹奏楽指導者クリニック）が第50回を迎え、記念大会が大々的に開かれた。特に初来日となったアメリカ海兵隊バンドを招聘して行なったコンサートと講座は大きな話題となった（このバンドは他に横浜、金沢、岩国でもコンサートを行なった）。同じくアクトシティ浜松を会場として8月に行なわれている浜松国際管楽器アカデミー&フェスティバルも第25回となり、それを記念し第2部では講師を中心とした記念吹奏楽団を特別編成しコンサートを行なった（指揮：大井剛史）。11月下旬には「第24回世界のお巡りさんコンサート in JAPAN」が東京で開催され、日本の警視庁音楽隊ほか9隊と、ニューヨーク市警察音楽隊、タイ国家警察音楽隊、マレーシア国家警察音楽隊の総勢約120人が演奏を行なった。

### ■海外との交流

既にいくつかの団体の海外での活動を記しているが、それ以外を。大きなトピックとなったのは毎年12月にアメリカ・シカゴで開催されているミッドウエスト・クリニックへの、フィルハーモニック・ウインズ大阪と光ヶ丘女子高校の出演。毎年、日本のバンドの出演が続いているが、2つのバンドが同じ年に出演したのは珍しい。

例年同様、台湾への日本のバンドの遠征は多く、まず10月18日から五日間にわたって竹北芸術祭に石川県の内灘中学校吹奏楽部が出演した。その後、毎年12月下旬に開催されている嘉義市国際管楽祭に国立音楽大学（金管バンド）、静岡大学、淀川工科高等学校、安城学園高等学校、高山西高等学校、聖徳大学附属女子中学校高等学校が参加している。これ以外にも作曲家や指導者などが個人単位でフェスティバルや講習会に多数招かれており、台湾との交流は密になってきている。他のアジア圏にも日本のバンドは招かれており、2月24日には「おおみや市民吹奏楽団」がシンガポールにて現地のプロ・バンド「フィルハーモック・ウインズ」と交流演奏会を行い、5月1日には上海で開催されたマーチング・フェスティバルに千葉県野田市立南部中学校がゲスト出演している。ただ、中国との関係悪化の影響により、幾つかの日本人の訪中が中止にもなっている。

それ以外の地域では1月1日に雲南選抜グリーンバンドがアメリカのカリフォルニア州で行なわれているローズパレードに出演。2月14日には埼玉栄中学・高等学校吹奏楽部がテキサス州音楽指導者協会クリニックに出演している。ヨーロッパへの演奏旅行も目立っており、3月下旬に東海大学付属高輪台高等学校、幕張総合高等学校、京都両洋高等学校の各校がそれぞれツアーを行なっている。7月には青森県高等学校文化連盟吹奏楽部選抜吹奏楽団がオーストリアのシュラートミンクで開催された「CIMSコンペティション」で第一位となる快挙。

海外団体の来日としては前述の幾つかのバンドの他、5月19日にワートバーグ大学ウインドアンサンブルが龍谷大学吹奏楽部と合同演奏会を開催。10月10日のピエンナーレいわ秋の芸術祭にグレナディア・ガーズ・バンドが出演している。金管バンドなどでは6月末から7月上旬にかけてファンファーレ・チョカリアが再来日ツアー、7月にプラスト！が国内32カ所で公演。10月31日から11月上旬までブラック・ダイク・バンドの再来日ツアー、12月上旬にはウェリントン・シタデル・バンドが国内5カ所でツアーを、それぞれ行なっている。アンサンブルとしては6月中旬の金管七重奏団「セプトウーラ」（イギリス）初来日ツアー、12月上旬のムノツイル・プラスが国内6カ所での公演が話題となった。

### ■その他

初の試みとして、10月19日から20日にかけて行なわれた全日本吹奏楽コンクール中学校の部・高校の部について全国のイオンシネマなど43館の映画館でライブビューイングが実施され、話題となった。5月1日にはFMたちかわで「HIKO波田野のTHE WIND STAGE」が放送開始されており、吹奏楽がローカル・ラジオで番組を持つことが多くなってきている。10月下旬に行なわれた国際コンテスト「ワルシャワ吹奏楽指揮コンクール2019」で芝岡愛貴が第二位となったのは吉報。

平成から令和へと変わったこの年、11月10日の祝賀パレード「祝賀御列の儀」では各官公庁の音楽隊が演奏を行なっているが、出発地では宮内庁楽部により北原幸男作曲の奉祝パレード「令和」が演奏された。今年には日本に初の吹奏楽団が組織されて150年ということもあってか、吹奏楽界にとって節目の出来事が多く見られた一年であった。